

KSKQ どかどか No.279 にゆーす

ぽぽんがぽん News

笑顔あふれ つながりあえる社会へ
～ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために～



7/25(木) 夜8時～
Eテレ バリバラ (NHK)
に出演します!!

ユースプラザcenter【エント】開設 & 子ども若者自立支援センター【くろす】再受託

2019年度、ユースプラザcenterの事業公募があり、ぽぽんがぽんもプロポーザルに参加し、担当者の企画準備・力説プレゼンの結果、見事受託することができました。この事業は、子ども・若者（中学生から概ね39歳）が、様々な社会経験や交流ができる居場所と相談窓口が主な事業内容になります。茨木市独自事業で、2018年度に東・西・南・北の圏域毎に既に設置されており、今回の中央圏域の選定により市内5箇所の設置となります。ユースプラザは学校や地域、子ども食堂や、子ども若者自立支援センター等との連携協力が想定され、全ての子ども・若者の健全育成と、困難を抱える子ども・若者の早期発見、早期介入の起点となることが期待されています。

また、従前より実施してきた子ども・若者自立支援センター事業についても、今年度プロポーザルによる公募が行われましたが、こちらも無事継続受託することができましたこともご報告いたします。

この3年間の子ども・若者自立支援センターの相談支援事業を通じて感じるのは、ニュースでも取り上げられている「8050問題」や、場合によっては精神病院の長期入院、生活困窮者自立支援法で捉えている課題など、多くの社会的課題とつながっている（だろう）ということです。これまで公的な支援が焦点化されていなかった分野ですが、かなり重要な分野だと痛感しています。今後も、子ども・若者自立支援センター【くろす】と、ユースプラザ【エント】を通じて、“安心して困ることができる地域”づくりに取り組んでいきたいと思っております。

(事務局 長 水野 昌和)

目次

- 1頁 ユースプラザcenter エント 開設と子ども若者自立支援センターくろす再受託
- 2～3頁 ぽぽんがぽんと映画「道草」
- 4頁 各場（事業）から・スタッフ紹介

- 5頁 のむすけバスに乗る
- 6頁 大阪北部地震から1年
- 7頁 被災支援のお願いと寄付金のお礼
- 8頁 編集後記

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8)日発行

えいが みちくさ ぽぽんがぽんと映画「道草」

『映画「道草」について』



みなさんは映画「道草」をご存じですか？重度の知的障害がある方の一人暮らしを支える仕組み（重度訪問介護）を取り上げたドキュメンタリー映画、それが「道草」です。NHKや新聞記事でもとりあげられ、関西では3月23日から大阪、京都、そして神戸で劇場公開されました。今後、各地で自主上映会も続々と企画されています。私も前売り券の委託販売をさせていただき、たくさんの方に買っていただくことができました。ありがとうございました。

映画はとてもシリアスなテーマですが、明るい音楽やユーモラスな日常、そして日々の周りにある美しい映像で、時に笑いを誘い、見たあとに「また、見たいなあ(*´▽`*)」と思えるような内容です。

じつは、ぽぽんがぽんでも約19年前から同じような取り組みを続けています。この映画を通じて、こういった取り組みが全国へ広がることを期待して応援してきました。

そして、この映画「道草」によって、今まであまり知られてこなかった、ぽぽんがぽんの自立生活支援も世間に注目されることになりました。ぽぽんがぽん理事太田吾郎のインタビュー記事が新聞に掲載されたのです。さらに3月24日には、自立生活をしているO.sさんとそのヘルパーさん達が、大阪の劇場で行われた監督舞台挨拶に招かれ、お話をさせていただきました。（舞台挨拶については、次ページで藤原さんにおまかせしたいと思います）

そのつながりは、NHKテレビ番組『バリバラ』へと広がっていくようです。この映画やテレビを見ていただき、多くの人に重度知的障害者の自立生活、地域生活の理解が進むことを期待しています。

（相談支援部門 山本真輝）

『宍戸監督からメッセージをいただきました』

ぽぽんがぽんのみなさま、
映画「道草」公開にあたっては大変お世話になりました。
さまざまな制度ができる以前から、
志と熱とをもって街をひらき、人の心をひらいてこられた
ぽぽんがぽんさんのありように触れ、
深い感銘と共感をおぼえた日々でした。
これからもみなさんの取り組みに学ばせていただけたらと思います。
出会えたことに、あらためて感謝申し上げます。
ありがとうございました。



宍戸監督 栗所時 ※下段右端：宍戸監督

（宍戸大裕）

『O.sさんと愉快的仲間たち♪』

3月に大阪シネヌーヴォで上映された、映画「道草」の舞台挨拶に、O.sさんと支援者で行ってきました。舞台挨拶といっても、映画に出ているわけではなく、映画の中の方達と同じように、自立生活をされているO.sさんの生活の様子などをお話しさせていただきました。

まず、宍戸監督より『O.sさんと愉快的仲間たち』と紹介があり、緊張しまくっている支援者をよそに、足を組んで座りながら余裕なご様子のO.sさん。支援者がO.sさんのこれまでの武勇伝(?)を話している横で、「個人情報よ〜!」と突っ込みを入れ、会場を笑わせ、和やかな雰囲気させてくれていました。

さて、そんなO.sさんの自立生活今年で19年目を迎えます。

重度訪問介護という制度もなく、重度知的障がいのある人の自立生活は“未知”ともいえる中、O.sさんの自立生活は始まりました。



当初は映画の中の方達と同じように、自傷行為、他害行為、破損、お店でのトラブルで謝罪、出入り禁止になる、といったことは日常的にあり、また、彼女の「自立生活」とはどんなものなのか?どんなふうに支援・介助していけばいいのか?お手本もない本当に手探り状態の中で追いつめられ「ホンマに自立生活なんてできるのか?」という思いでいっぱいでした。

でも、不思議なもので、一年、また一年と

時が経つごとに、それなりに生活リズムが整い『O.sさんの生活』が見えてくるようになりました。

自傷行為や他害行為についても、今では驚くほど減り、当初の「カッ!カッ!」という威嚇(?)の声をあげることもなくなりました。言葉もたくさん増えて、自分がなにをしたいのか、なにに困っているのかなど伝えることができるようになりました。

例えば、洗濯物を取り込む際、靴下が片方だけ見つからなかったとすると、今までなら「あー!」とイライラして、ベランダから裏のお宅へ残った靴下を放り投げ、そのあとヘルパーに「八つ当たり…、その都度「そんな時は一緒に探すから教えてな」と話してきました。ある日、同じように洗濯物の片づけをされている時、O.sさんが何やら探されているので「なに探してるの?」と声をかけると「くつした!」とO.sさん自ら見つからないことを伝えられることがありました(一緒に探して靴下は見つかりました)

そんな風に少しずつ、コミュニケーションが取れるようになると、絵カードで「カラオケ、プール」と行きたい所も伝えられたり、不思議といろんなことがスムーズにできるようになって、今までのすったもんだはなんやったのか?と思えるほどになりました。

また、スーパーで買い物していると「随分、落ちつかはったねえ」と声をかけられることがあり、「ああ、地域の人たちがO.sさんのことを見てくれてはるんやなあ」と感じるがあります。

舞台挨拶で、O.sさんの武勇伝を笑い話のように話している時、宍戸監督が「今は笑って話されているけど、その時は大変だったでしょう?」と言っておられたのですが、これまですったもんだしながら、泣いたり笑ったり、時にはぶつかりあうことがあったからこそ、今のO.sさんの「自分らしい生活」があるのではないかと思います。

来年は、O.sさんの自立生活20周年!!

たくさんの笑顔で迎えられるといいなあ。

かくば
各場から

グループホーム部門

こんにちは。今回はグループホーム（共同生活援助事業）について紹介させていただきます。

現在、茨木市内には障害者グループホームが68住居あります。ぽぽんがぽんのグループホームは茨木市内に10住居（27名定員）あり、すべてが府営住宅です。少人数で、家庭的な雰囲気大切にしたい思いから、府営住宅を活用しています。しかも、所得に応じた家賃設定なので、お財布に優しい！これからも利用者さんの安心できる、ホッとできる「おうち」を目指して参ります！（部門統括 今村尚紀）

グループホーム部門 スタッフ名鑑

グループホーム部門のスタッフ名鑑が完成しました！今回は、この4名です。

名鑑の見方は、左から顔写真、中央がスタッフ基本情報（①名前、②入職年度、③入職のきっかけ、④マイブーム、⑤こんなグループホームにしたい！）、右がスタッフ持ち味です。



- ① 今村 尚紀（イマムラ タカノリ）
- ② 1999年
- ③ 専門学校でのヘルパー募集
- ④ サッカー（ガンバ大阪）
- ⑤ 看取りのできるホームに！



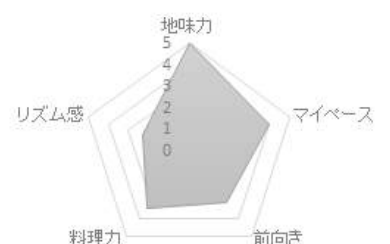
- ① 小野 壮一（オノ ソウイチ）
- ② 2004年
- ③ 福祉に興味があった。
- ④ プロ野球
- ⑤ 質の高い支援を提供できるホームに！

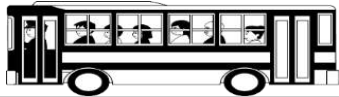


- ① 田口 聖明（タグチ キョアキ）
- ② 2007年
- ③ 当時の時給に惹かれて
- ④ Amazon
- ⑤ ほっこりできるホームに！



- ① 太田 恵美（オオタ メグミ）
- ② 2007年
- ③ 友人がつながりまつりに誘ってくれた
- ④ ポテチしあわせバターとアイスコーヒー
- ⑤ 笑いのあるホームに！





のむすけバスに乗る No. 9



今回は、日本航空株式会社が提供する、JALプライオリティ・ゲストサポート（国内線・国際線）について紹介します。

私の母親は、長年「統合失調症」という精神障害と付き合っています。その母親も今年の3月で70才になりました。統合失調症のため旅行経験も少なく、飛行機も40年前に乗ったきりだそうです。

そこで、人生の思い出づくりとして、今年の2月に沖縄旅行を強引にすすめることにしました。大阪が一番寒い時期に暖かい沖縄に連れていきたい！。昨年12月にはパックツアーやレンタカーの手配が整いひと段落。母親に伝えると①「楽しくてわくわく」②「飛行機に乗る不安」③「行きたくない」と、そして「私は行きたくない」と、表明。こうなることをあらかじめ予想していました。旅行の話をする強い不安を訴えていました。週に1回は、沖縄旅行の話題をするようにして、不安の原因を聞き取っていきました。「飛行機が墜落するのが怖い」ほかの交通機関に比べて飛行機の事故が極端に少ないことを説明したり。薬の副作用で便意が感じにくいので、失敗しないか心配。と具体的に。座席のトイレの近くにしてあげようと思っても座席指定の画面にはトイレの位置なんて書いてありませんし、使用機材（飛行機の種類）によって変わってくるだろうし…。そこで、JALのホームページをチェックすると「プライオリティ・ゲストセンター」を見つけました。早速電話で相談し、次のような配慮をしてもらいました。①不安を和らげるために専用カウンターでのチェックインと優先搭乗②私たちの座席をトイレに近い2人席に指定変更③客室乗務員や地上職員が母親のサポートしてほしい事柄について情報の共有。④プライオリティゲストカードの発行（無料）《マイレージカードと一体化しているため、次回より配慮してほしい内容を予約時にカード番号を申告すれば説明しなくてもサービス提供してもらえる》

当日は、念のため紙パンツを着用してもらい、専用チェックインカウンターへ向かいました。待ち時間も少なく、丁寧にやり取りをしてもらったので不安も少なく済みました。時間に余裕があったため、リラックスできるようにショッピングや会話を楽しみました。機内では、席に着くと客室乗務員が「お困りのことがありましたら仰ってください。」と声をかけてくださいました。また飛行中でも複数の乗務員が時折声を掛けていただきました。おかげさまで離陸と着陸は不安な様子でしたが、機内では空の旅を楽しむことができました。帰りの機内では「また、沖縄に旅行に行きたい」と母が言うことができました。



今回紹介した、JALプライオリティ・ゲストサポートでは、障がいがある人・病気やケガのある人・食物アレルギーのある人・などが対象です。また、スマイルサポート（国内線）として、妊娠中の人・乳幼児の同行者・子どもの単独利用・高齢の人・の利用時に、どちらも特別な手数料なくサポートしてもらえます。また、2018年12月からは、遠隔手話通訳サービスが提供されています。パソコンより、ビデオ通話で日本の手話に限って様々な手配が出来るそうです。

様々な「配慮」を『特権』と揶揄する人もいます。飛行機を利用するだけなのですが、相当なエネルギーと覚悟が必要でした。JALプライオリティ・ゲストサポートを利用して、飛行機に搭乗するための手続きを適切に配慮してもらうことで、安心して利用することが出来ました。障害がある人を含む配慮が必要な人たちが快適に利用するためには、相当な気配りと情報の共有や蓄積が大切だと感じました。全ての人たちにとって快適・安心に交通機関が利用できる社会であるよう、私も働く中で特に気を使い取り組みたいと思いました。

（野村孝治）

※JALプライオリティ・ゲストサポートは、公式ホームページをご参照ください。

出典 日本航空株式会社 公式ホームページ

協力 日本航空株式会社 お客様サポート室



おおさかほくぶじしん ねん
大阪北部地震から1年

とうじ おもいだして、とうじかんじたことを書いてみようと思います。

地震発生後2〜3日くらいは町中に「被災感」を強く感じました。発生3日後くらいだったでしょうか、出勤途中に通った公園で、自衛隊が仮設浴場を開設して下さっていたのですが、そのすぐ横のテニスコートでは朝からテニスを楽しまれている方々がいらっしゃいました。この風景を見たときに感じたのが被災と復興の境目でした。

発生1週間ほどすると市内各地のガスも概ね復旧し、自分自身も含め、この被災と復興の境界線が一気に動いたように感じました。2週間もすると当初感じた町中の被災感はかなり薄いものになっていたように感じました。

その後、数週間が経った頃だったと思いますが、作業所の送迎スタッフから、1人暮らしをされている精神障がいのある方のアパート玄関ドアの穴がずれていて鍵がかけられない状態であるという報告がありました。地震発生からずっと施錠ができていなかったのか?!と、何とも



発生直後の事務所の様子
ガラス戸と食器棚が転倒

言えない申し訳ない感情が芽生えました。人知れず被災が続いていたことに気がつかされました。

生活保護基準での住居は古いアパートが多く、もしかすると同じように倒壊はしていないものの日常生活への支障が生じながらも自身からはリカバリーしていくことが困難で、長期間不便なままだった方が数多くいらっしゃったのではないかと想像します。



発生直後の事務所の様子
本棚が転倒

一概には言えませんが、(障がいの有無に関係なく)生活保護を活用して暮らされる方の多くは、災害時に自助的復興をする世帯体力も弱い場合が多いのではないかと思います。そういった方々の住居選びに関しては、一定の災害に耐えうるだろう物件選定をするよう行政が指導・管理するなどの対策が必要なのではないでしょうか?生活困窮者とよばれる方々が、災害の度に人知れず生活の困窮が大きくなってしまわないのでしょうか。

当法人で支援させてもらっている自立生活をされている

Yさんも、地震後避難所生活を経て、自宅の損壊が著しく転居が必要となったのですが、生活保護基準で入居できるア

パートは損壊が多く、賃貸供給がストップしてしまい、半年以上転居ができない状態が継続していました。

社会モデルの視点で、“災害に強い町”、“人知れず被災していくことのない町”に必要なことは、何なのか、改めて考えていきたいと思っています。

(事務局長 水野昌和)

おおさかほくぶじしん 1ねん たちまし ひさい ほうかごなど
大阪北部地震から1年が経ちました。被災した放課後等デイサービスPlusは、法人本部内での仮設事業場としてではありませんが、事業再開、継続がなんとかできている状況です。ご支援をいただきました皆さまには、感謝申し上げます。被災後、本格移転の動きに注力してきましたが、困難が多く1年が経ち、長期戦を見据える必要があります。ひとまずは現状の支援に軸足を置き、取り組んでまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

ご寄付等のお礼 2019年2月1日～2019年5月31日まで（順不同）

※郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は次号にて掲載させていただきます。

- この度の被災にあたって、たくさんのお見舞金、ご寄付等ご支援を頂きました。本当にありがとうございました。

村上様 匿名の皆様

- 社会福祉法人ほぽんがぽんへのご寄付ご協力ありがとうございました。

鎮山様 大島様 萩原様 長島様 塚平様 津川様 和田様
村上様 匿名の皆様

社会福祉法人ほぽんがぽんへのご寄付をご希望される方は、申込書が必要となりますので社会福祉法人ほぽんがぽん（072-623-9202）までご連絡ください。

- つながりの会ほぽんがぽん（後援会）へのご寄付ご協力、ありがとうございました。

【ご寄付頂いた方々（切手・ハガキ等含む）】

コープこうべ自主活動グループ小間物やさん 磯川様 村上様 舟橋様 匿名の皆様

【募金箱のご協力（回収）】

ファミリーマート舟木店様 埴淵様 今村様 大塚様 匿名の皆様

- アルミ缶・バザー用品・牛乳パック提供ありがとうございました。

【バザー用品】コープこうべ自主活動グループ小間物やさん 松本様 舟橋様 村上様 谷川様 浅野様
谷田様 坂本様 前田様 林様 作業所へ持参して下さった皆様 匿名の皆様

【アルミ缶】浅野様 花園東和苑自治会様 ハロハロ様 植木様 舟橋様 作業所へ持参して下さった皆様

【牛乳パック】関西よつ葉連絡会淀川産地直送センター様 菜の花障害者相談支援センター様 作業所へ持参して下さった皆様

- 文房具類ご提供ありがとうございました。

村上様 コープこうべ自主活動グループ小間物やさん 匿名の皆様、持参して下さった皆様

- 車椅子のご提供ありがとうございました。

王様

ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

編集後記

2016年7月26日相模原事件から3年が経ります。ぼくはこのことについて、誰に、何を、どう伝えればよいのか、自分が何をすればいいのか、未だに答えを持っていません。ただ、忘れてはいないし、忘れてはいけなと思い続けています。ひとつだけ言えるとしたら、やはり障がい当事者の「声」を聴くことが、ぼくの想像力の不足を補うためには必要だということ。今回、ぼぼんがぼんとも友誼団体である茨木しよう会で、相模原事件をテーマに学習会をすることになりましたので、ぜひ参加してください。また、NHK Eテレ バリバラに、ぼぼんがぼんの取り組みが取り上げてもらえることになりましたので、ぜひ見てください。(太田吾郎)

<茨木しよう会学習会>
～相模原事件から3年 優性思想について考える～

日時2019年7月27日(土) 15時～16時45分

場所：茨木市立障害福祉センター「ハートフル」4階

講師：河合 翔さん

申込先：080-3849-2983 (伊東)

テーマ：2016年に相模原障がい者殺傷事件が起きました。痛ましい事件から3年となる今、河合さんのこれまでの歩みを伺いながらこの事件をきっかけに、出生前診断や優性思想のいまについて考えてみたいと思います。



Eテレ 木曜夜8:00
再放送 日曜 0:00 (土曜深夜)

放送予定 2019年7月25日(木) 20時～20時29分

テーマ：「相模原殺傷事件から3年 重度知的障害者の自立生活について考える！」

(一部抜粋) 全国でも例が少ない重度知的障害者の自立生活。その実態とともに多くの人に「当たり前前の暮らし」を実現させるには何が必要か事件3年の節目に皆で考える!

【 社会福祉法人ぼぼんがぼん 各場連絡先 】

- 法人本部、ヘルパー派遣、グループホーム窓口、相談支援、移動送迎
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F Fax 共通 072-623-9203
法人本部、グループホーム窓口、移動送迎 Tel 072-623-9202 (9:00～18:00)
ヘルパー派遣 Tel 072-623-9205 (9:00～18:00)
相談支援 Tel 072-623-9210 (9:00～17:00)
- いばらき自立支援センター「ぼかぼか」 (9:00～17:00)
〒567-0850 茨木市真砂玉島台 8-20 Tel 072-635-5762 Fax 072-635-5763
- いばらき自立支援センター「どかどか」 (9:00～17:00)
〒567-0842 茨木市五十鈴町 7-29-1FS Tel 072-637-6882 Fax 072-637-6883
- 茨木市立障害者就労支援センター かしの木園 (8:45～17:15)
〒567-0031 茨木市春日 1-15-22 Tel 072-626-5910 Fax 072-626-5912
- 放課後等デイサービス Plus (10:00～18:00) ※仮設事業場の連絡先です
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F Tel 072-665-5005 Fax 072-623-9203
- 茨木市子ども・若者自立支援センターくろす (10:00～19:00)
〒567-0842 茨木市片桐町 4-7 Tel 080-2467-5566
- ユースプラザ center エント (10:00～19:00)
〒567-0882 大阪府茨木市元町 4-7 ローズ WAM2 階 事務室 Tel 未定

編集者：「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」 TEL (072) 623-9202 (お問い合わせはこちらまで)

〒567-0888 茨木市駅前1-4-14 エステート茨木駅前3F 社会福祉法人ぼぼんがぼん (法人本部)

発行人：関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2東興ビル4F

定価：50円